

今日の説教のポイント <フィリピの信徒への手紙3章12~16章>

パウロが語る「後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ」(13)の意味を考え、来年に向かう信仰的準備をしたいと思います。

①走るの私たち、しかし、それを成し遂げて下さるのは主!

パウロが徒競争に例えて、「賞を得るために、目標を目指してひたすら走ること」(14)と説いている有名な個所です。しかし、ここを読んで、「頑張らないといけないな」と思うだけなら違います。手紙の最初で、「あなた方の中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げて下さる」(1:6)と語っています。ただ自分で頑張れと言われていたのではなく、神様がゴールまで導くと言って下さっているのです。「そう思っている理由を、あなたたちの罪を赦すために私のひとり子を十字架にかけたことに見なさい」と語りかけて下さっているのです。一人で頑張るのは終わりです。

②各人は、それぞれ到達した所から一歩先を目指して進もう!

パウロは、「私たちは到達したところに基づいて進むべきです」(16)とも説いています。隣の人が気になるのは信仰者となっても変わらぬ人間の性(さが)です。しかし、信仰の成長の到達点は皆違うのです。各人が今ある到達点から一歩先を目指せばいいのです。人生は、横の人と比べて負けないように頑張って走る徒競争ではなく、神様が各人に用意して下さったゴールを目指して各人が感謝しながら頑張って走る徒競争なのです! 自分にも他人にも優しくなれる競争です。

③私たちはこの世では旅人、本国は天にあり!

「我らの国籍は天にあり」(20)も有名な言葉です。この世に生れて来てからこの世で生を終えるまでの期間で人生の帳尻があっているか、それは信仰者の見方ではありません。「私たちはこの世では仮住まい」(ヘブル人への手紙11:13)だからです。「この世で成功し、評価されたかどうかは大した問題ではない。神様が用意して下さっている天国が待っているのだから!」、こう思ったらいいのです。楽になります。しかも、「旅の恥はかき捨て」ではなく、この世に執着しないからこそ、神様の目に良しとされる生き方を大胆に選び取って行けるようになるのです。新しい年もそんな歩みを目指しましょう!